



相談会にて放射能がどのように流れていったか説明する振津さん（いわき市）

「一人で悩まないで」

～第2回いわき医療相談会開催～

この春開催した「ひょうご ちょっとのぞいてみようツアー」に参加したお母さん2人が中心になって、いわき市遠野町で振津かつみ医師の医療相談会を初めて開いたのは、今年の7月。

「これまでこの地域で、放射能の不安や疑問を話せる場はなかった」「正しい知識で正しく怖がるのが大切だとわかった」との声を受け、その参加者の方たちが「遠野町子供の未来を考える会」を結成。11月17日、第2回医療相談会が開催された。

参加者は10数名。たたみの部屋で机を囲み、マイクがなくてもそれぞれの声が聞こえる近さで、振津さんの話に聞き入っておられた。

振津さんは、いわきでいかに被曝を少なくし

て生活できるか、20年以上にわたるチェルノブイリの人々との関わりを経験を通して話をされた。質疑応答で一人の参加者は「周囲はもはや平常の生活に戻っている。その中でこどもをプールに入らせず、給食も食べさせてない親は自分だけで苦しかった。でも自分と同じように心配する人がこんなに近くにいたなんてうれしい」と声を詰まらせた。

現在、いわき市の空間放射線量は約0.1～0.2マイクロシーベルト/h。福島県の他市に比べて、数値だけみれば低い（とはいえ兵庫県の約3倍／文科省調べ）。それだけに人々の関心は薄れがちになるようだ。見えず、においもさせず、放射能は人と人の間に冷たい壁を作り続けている。参加者の孤立感は深く重いと感じた。

振津さんの講演の第一声は「一番大事なのは一人で悩まないこと！」。この声を一人でも多くの方に届けなければいけない。（西本玲子）

■いわき医療相談会■

第二回 子供たちの未来を考える

日時：11月17日（土）

9：00～12：00

場所：鹿島公民館

講師：振津かつみさん
（午後から個人相談）

主催：
遠野子供の未来を
考える会



上段右：相談会の様子

中段左：託児チームが講演会をバックアップ。
皆さん、ありがとうございます！

中段右：チェルノブイリのこどもたち

下段左：講演会の前に市民放射能測定所「たちね」も訪問。いわきの様子、食品や
土壌測定についてお聞きする。



福島の梨完売！ ～ご協力感謝します～

神戸 YWCA 秋バザーで、大内果樹園の梨 92 個を完売することができました。この梨を通して、賛成のみならず疑問の意見も含めて、多くの方と対話できたことが何よりもうれしいことでした。これからも引き続き、福島農業生産者の方の取り組みについて関心を寄せていきたいです。

